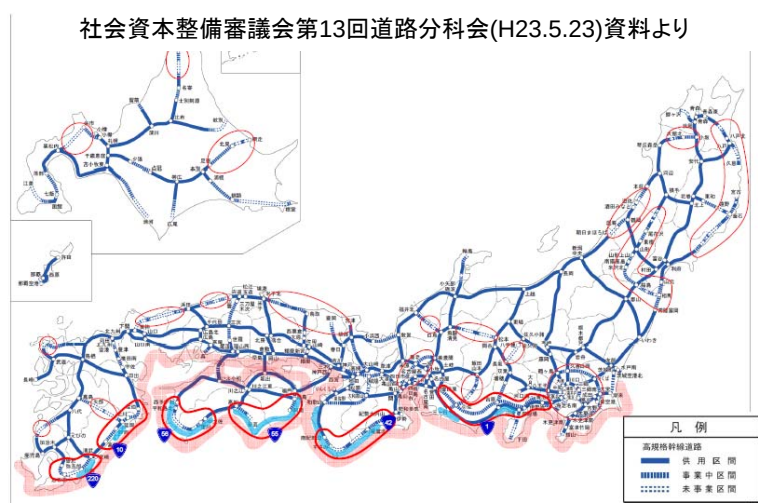


2) 四国の道路の課題と現状 (四国8の字ミッシングリンク関係)

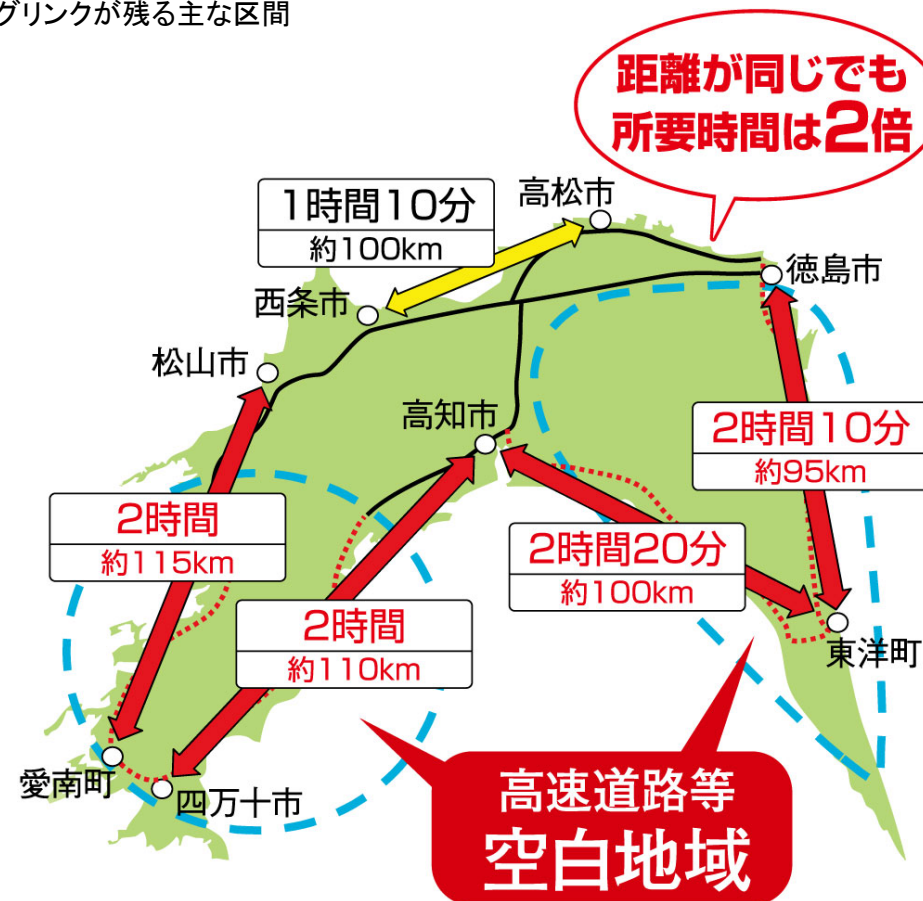
四国の現状と課題

ミッシングリンクの現状

- ◇先般な社会資本整備審議会・道路分科会(H23.5.23)の資料にも示されているとおり、「四国8の字ネットワーク」のミッシングリンク（高速道路等未整備区間）については、東海・東南海・南海地震時に想定される津波影響範囲にあたる。
- ◇ミッシングリンクにおいては、津波の分断予想箇所が集中していることにより、災害時の避難・緊急輸送に支障をきたす事が懸念される。
- ◇ミッシングリンクにより四国の主要都市間の時間距離格差が発生するなど、広域交流と地域連携を支援する広域的なネットワークの確保が必要。



- 東海・東南海・南海地震時に想定されている津波影響範囲
(平成15年12月中央防災会議「東南海、南海地震に関する報告」)
- 東海、東南海、南海地震時に津波浸水が想定される主な国道
- ミッシングリンクが残る主な区間

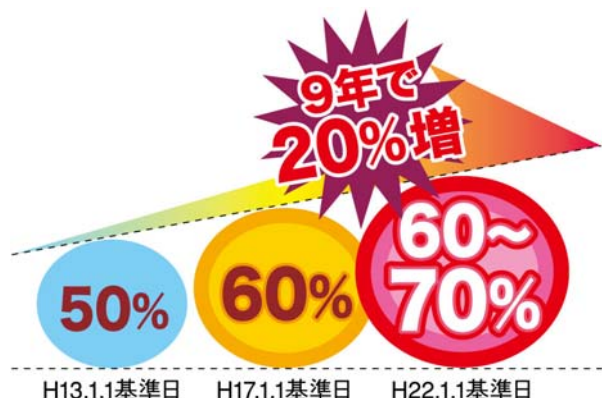
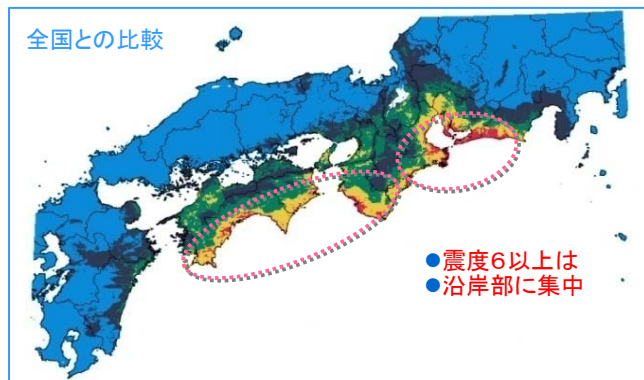


※H23.3時点

四国の現状と課題

東南海・南海地震による影響

- ◇四国西南・東南地域は、今後30年までに60～70%、50年までに90%の確率で発生すると予想されている東南海・南海地震の被害を最も受けると考えられている地域の一つであり、四国の地震による死者数は約8,000人と、全国(約22,000人)の 約1/3を占める
- ◇津波浸水による分断予想箇所は、直轄国道(国道55号、56号)が唯一の幹線道路であるミッシングリンク(高速道路等未整備区間)に集中
- ◇東日本大震災を受け、今後、東南海・南海地震の被害想定が拡大の方向で見直される可能性大



【東南海・南海地震の発生確率(30年以内)】

震度は5強～6弱
3～5m以上の津波が発生
津波により分断

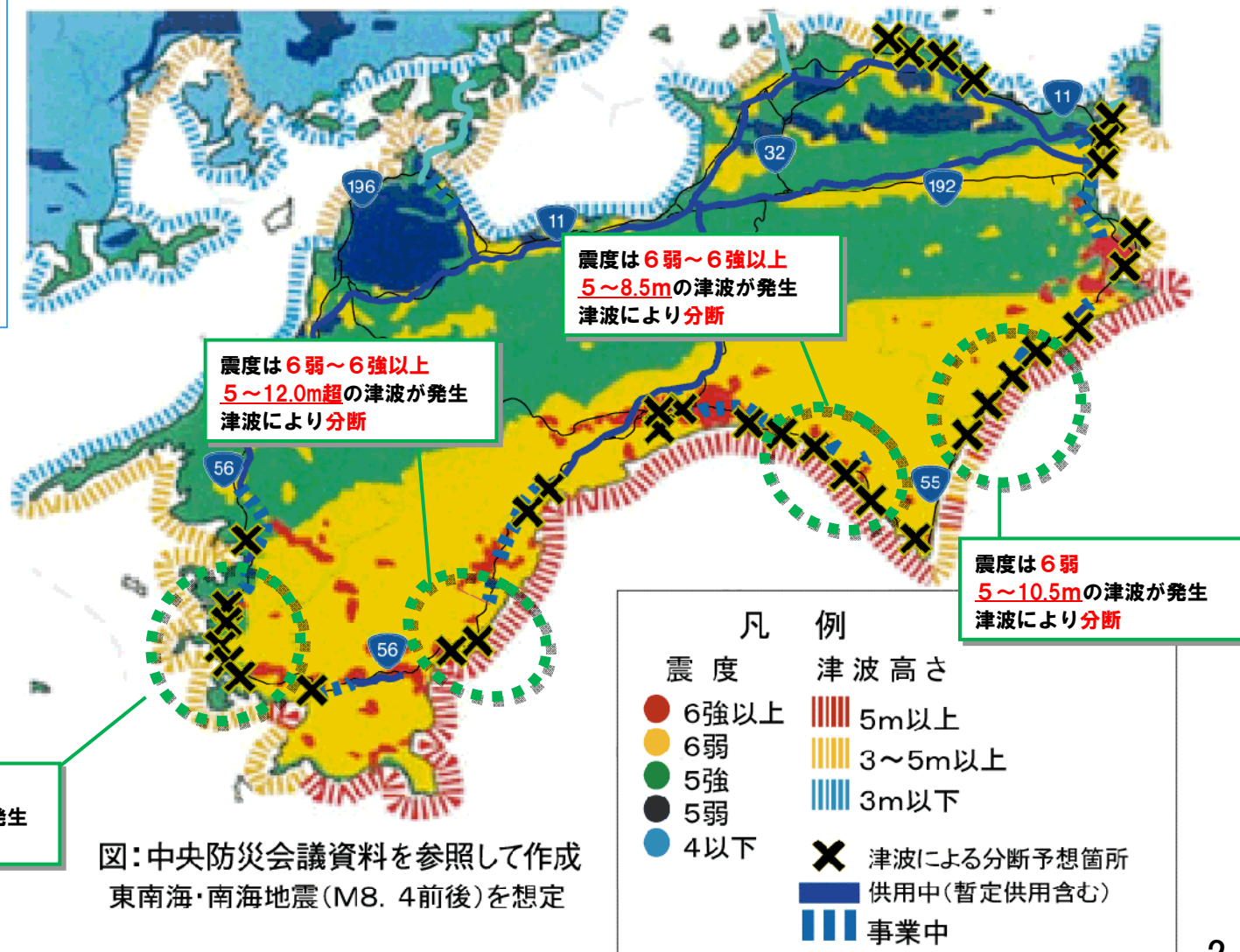
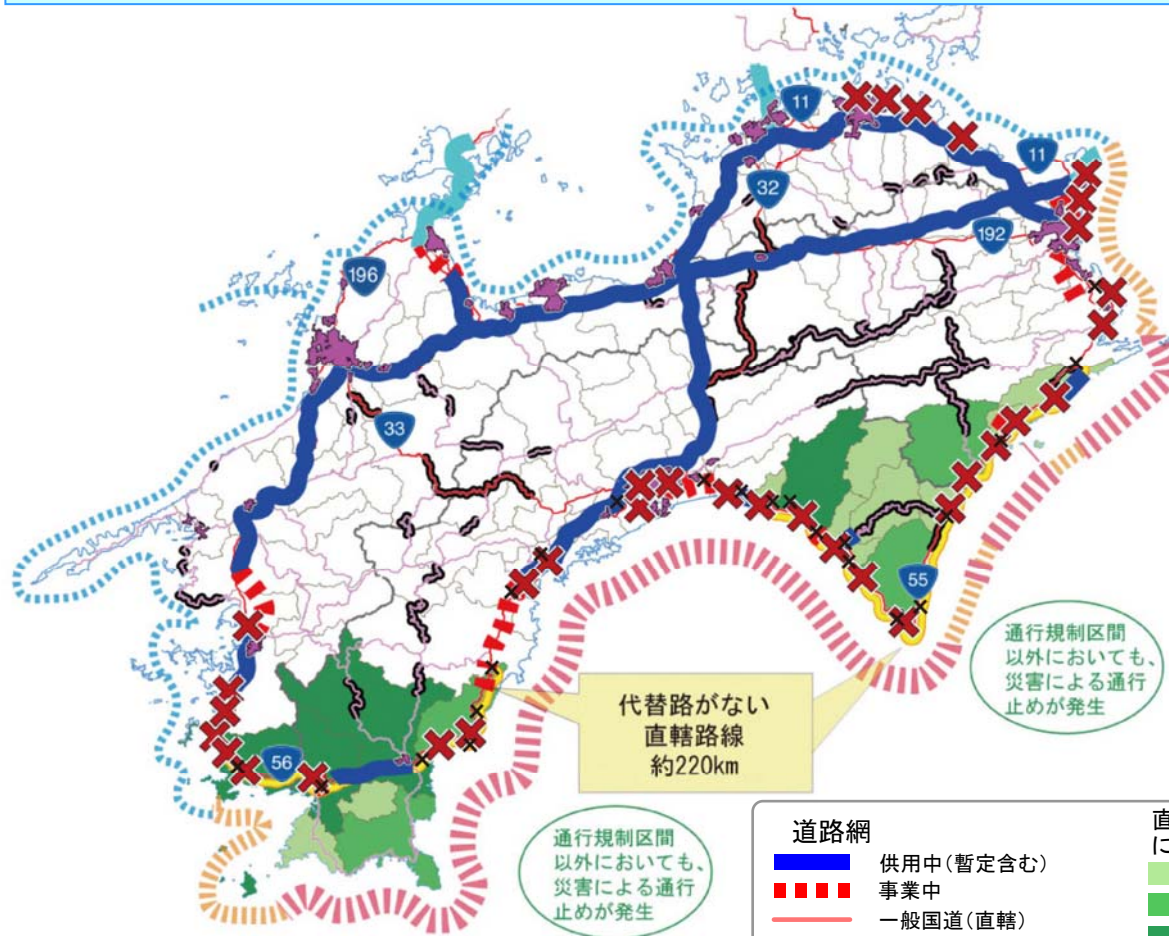


図: 中央防災会議資料を参照して作成
東南海・南海地震(M8. 4前後)を想定

四国の現状と課題

脆弱な道路ネットワーク

- ◇四国は、事前通行規制区間が多く、その割合は全国ワースト1位(直轄国道、補助国道以上でもワースト2位)
- ◇事前通行規制区間以外でも、災害発生実績があり、特にミッシングリンクにおいて道路が寸断される可能性が非常に高い
- ◇代替路がない直轄区間は約220km。東南海・南海地震において津波等により直轄国道が分断された場合、20万人(四国全体の5%)が孤立する可能性がある



道路網

- 供用中(暫定含む)
- 事業中
- 一般国道(直轄)
- 一般国道(補助)

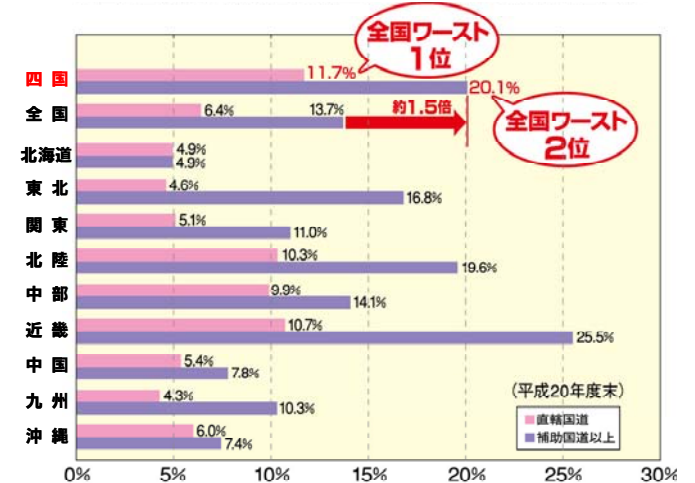
津波の高さ

- 5m以上
- 3~5m
- 3m以下
- 津波による分断予想箇所

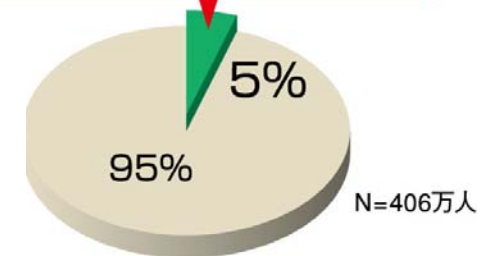
直轄国道寸断(津波浸水等)による孤立地域

- 人口10,000人未満
- 人口10,000~20,000人
- 人口20,000以上
- 災害発生箇所[H5~20](道路崩壊、斜面崩壊、土砂崩れ等)
- 通行規制区間
- 代替路のない直轄国道(事業中区間を除く)
- DID(人口集中)

【事前通行規制区間延長割合】



孤立する可能性のある人口は
20万人
(四国の5%)



【条件】
事前通行規制区間及び走りやすさマップのDランクは、通行不可と設定

孤立する可能性のある地域の人口割合
出典)住民基本台帳人口要覧(2009.3.31時点)